

# 国立大学法人香川大学の平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果

## 1 全体評価

香川大学は、世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を養成し、地域社会をリードするとともに、共生社会の実現に貢献することを理念としている。第2期中期目標期間においては、幅広い基礎力と高度な専門知識に支えられた課題探求能力を備え、国際的に活躍できる人材育成等を目標としている。

この目標達成に向けて、学長のリーダーシップの下、基礎的教育の役割を担う全学共通教育新カリキュラムを策定するとともに、香川大学共通教育スタンダードを定め、それに即した到達基準を策定するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

業務運営については、学長直轄組織として男女共同参画推進委員会及び男女共同参画推進室を設置して専任のコーディネーターを配置するとともに、男女共同参画推進の基本理念や方針を決定し、四国女性研究者フォーラムを開催するなど男女共同参画推進に関する取組を実施している。

財務内容については、各部局の外部資金獲得意識の向上、円滑な申請作業、採択額の向上を図ることを目的として外部資金獲得支援経費を新設してアドバイザー制度に対する支援を行った結果、科学研究費補助金の採択件数は226件（対前年度比60件増）、採択金額は4億2,190万円（対前年度比8,959万円増）となっている。

その他業務運営については、エネルギー監視計測システムにより、エネルギー（電気・ガス）のデータベースを構築するとともに建物ごとのエネルギー使用量、料金換算値を大学内のウェブサイトに掲載することで省エネルギーに対する取組状況の可視化を行っている。

一方、毒物・劇物等の管理状況について、経済学部、医学部、医学部附属病院、工学部において適正に管理されておらず、速やかな対応を求める意見が監事・内部監査において出されていることを踏まえ、毒物、劇物を含む薬品管理の徹底について関係者への周知や、適正管理に必要な環境整備、マニュアル等に基づく適正な運用に努めることが求められる。

教育研究等の質の向上については、新教務システムを本格稼働し、学外からのアクセスによりウェブサイト上で履修登録が可能となったことや、休講・補講の情報やその他講義に関する連絡等が携帯電話のメールアドレスに自動転送されるようになるなど、学生サービスの充実が図られている。また、キャリア支援センターと就職活動を終了した学部4年次生が協力し、学部3年次生の就職活動に関するアドバイスを行うなどの就職支援活動を実施するとともに、キャリア支援に関する各種情報を掲載した就職手帳を作成し、就職活動を始める学生に配付している。

## 2 項目別評価

### I. 業務運営・財務内容等の状況

## **(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標**

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 教育組織と教員組織の分離の実施に向け、教育研究組織のあり方について検討し、平成 23 年 4 月から研究院体制へ移行する準備を行っている。
- 教育研究環境整備費を学長戦略調整費に組み入れ、学長裁量の下、より戦略的に事業を実施できるよう資源配分を行うとともに、各部局における外部資金獲得戦略に基づく研究支援事業の支援経費として、学長戦略調整費の外部資金獲得支援経費を新設して外部資金獲得のための資金配分を行っている。
- 学長直轄組織として男女共同参画推進委員会及び男女共同参画推進室を設置して専任のコーディネーターを配置するとともに、男女共同参画推進の基本理念や方針を決定し、四国女性研究者フォーラムを開催するなど男女共同参画推進に関する取組を実施している。また、女性研究者の教育研究活動の支援に向けた四国 5 国立大学男女共同参画推進共同宣言を提案し、四国内 5 国立大学学長によって宣言されている。

### **【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載 9 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## **(2) 財務内容の改善に関する目標**

(①組織改革に伴う財務戦略、②自己収入増加、③経費の抑制)

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 経費削減等行動計画「香川大学ムダ取りアクションプログラム」を策定し、複写機賃貸借契約見直し等による経費削減や診療科ごとの手術時間の割り振りを見直したことによる手術件数増加等による自己収入増加に向けた取組を実施している。
- 各部局の外部資金獲得意識の向上、円滑な申請作業、採択額の向上を図ることを目的として外部資金獲得支援経費を新設してアドバイザー制度に対する支援を行った結果、科学研究費補助金の採択件数は 226 件(対前年度比 60 件増)、採択金額は 4 億 2,190 万円(対前年度比 8,959 万円増)となっている。
- 他大学との財務状況比較を行い、その分析結果を基に外部資金にかかる収益のさらなる獲得や一般管理費のさらなる削減等香川大学が対応すべき検討事項を取りまとめた新たな予算編成方針の素案を策定している。
- 中期計画における総人件費改革を踏まえた人件費削減目標の達成に向けて、着実に人件費の削減が行われている。今後とも、中期目標・中期計画の達成に向け、教育研

究の質の確保に配慮しつつ、人件費削減の取組を行うことが期待される。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標**

( ①評価の充実 )

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 部局における教育研究活動の水準・質の向上を図るため、「部局等の教育研究活動等評価」を導入し、部局における教育、研究、運営活動等に関する中期目標・中期計画を作成するとともに、それに対応する年度計画及び数値目標（志願倍率、定員充足率、進路確定率、科学研究費補助金応募率・採択率等）をそれぞれ設定し、自己点検・評価を行うこととしている。
- 第2期中期目標期間における中期計画及び年度計画を管理するシステムとして、ウェブサイト上から入力・出力等を行うシステムを導入して作業の効率化を図っている。
- 第2期中期目標・中期計画や平成22年度計画等を掲載したオリジナル手帳（香川大学ハンドブック）を作成して全教職員に配付し、中期目標や中期計画等の内容をいつでも確認できるようにしている。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

(理由) 年度計画の記載1事項が「年度計画を上回って実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

**(4) その他業務運営に関する重要目標**

( ①施設設備の整備・活用等、②環境配慮活動、③危機管理体制の充実、  
④情報セキュリティ )

平成22年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 新たな共用スペース確保のための有効活用指針を策定し、新たに共用スペース約980㎡確保して全体では約6,900㎡となっている。また、工学系若手研究者の自立した研究を支援するための研究スペースを7室（約500㎡）確保している。
- エネルギー監視計測システムにより、エネルギー（電気・ガス）のデータベースを構築するとともに建物ごとのエネルギー使用量、料金換算値を大学内のウェブサイト

に公開することで省エネルギーに対する取組状況の可視化を行っている。

- 情報セキュリティ監査の監査項目を精査し、工学部及び総合情報センターの情報セキュリティ内部監査を実施するとともに、情報セキュリティセミナーの実施等により教職員の情報セキュリティに対する意識向上を図っている。
- 東日本大震災における被災地支援については、災害医療援助チーム（DMAT）や放射線技師、法医学教授を派遣するとともに、救援物資の供給や義援金の募集を行っている。

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

- 毒物・劇物等の管理状況について、経済学部、医学部、医学部附属病院、工学部において適正に管理されておらず、速やかな対応を求める意見が監事・内部監査において出されていることを踏まえ、毒物、劇物を含む薬品管理の徹底について関係者への周知や、適正管理に必要な環境整備、マニュアル等に基づく適正な運用に努めることが求められる。

**【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる**

（理由） 年度計画の記載 8 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

## II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 22 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- バランスのとれた学士力を備えた学士を育成するため、基礎的教育の役割を担う全学共通教育新カリキュラムを策定し、平成 23 年度以降実施することとしている。また、新カリキュラムにおいて、香川大学生として身につけるべき共通教育スタンダードを 5 項目定めるとともに、各項目の到達基準を策定している。
- 新教務システムを本格稼働し、学外からのアクセスによりウェブサイト上で履修登録が可能となったことや、休講・補講の情報その他講義に関する連絡等が携帯電話のメールアドレスに自動転送されるようになるなど、学生サービスの充実が図られている。
- 四国弁護士会連合会と連携して高松市の商店街に無料法律相談所を開設し、相談事例を臨床法学教育科目であるリーガル・クリニックに活用することとしている。
- キャリア支援センターと就職活動を終了した学部 4 年次生が協力し、学部 3 年次生の就職活動に関するアドバイスを行うなどの就職支援活動を実施するとともに、キャリア支援に関する各種情報を掲載した就職手帳を作成し、就職活動を始める学生に配付している。

- 研究推進戦略、研究振興の在り方、競争的資金の獲得体制・手法等について検討し、研究水準を向上させるために研究マネジメント戦略会議を設置している。また、研究マネジメント戦略会議プロジェクトチームを設置して部局を超えた連携研究の推進及び研究支援体制整備のための経費執行のあり方等について検討し、特別奨励研究（部局間連携枠）及び外部資金獲得支援員配置事業を新設している。
- 農学部食品安全・機能解析研究センターを設置して組織横断的研究の推進体制を整備するとともに、食品の安全に関する分析技術の開発、食品の生理機能性等について健康と安全の諸問題を解決するためのチームを整備しており、今後の活動が期待される。
- インドネシアのガジャマダ大学・ボゴール農業大学・ハサヌディン大学と香川大学・愛媛大学・高知大学で熱帯農業に関する SUIJI コンソーシアムを設立し、コンソーシアムを通して、ダブルディグリープログラムを推進し、学生交流や研究交流の発展、強化を図ることとしている。
- サボア大学（フランス）と工学部で両大学の学生が参加でき、相互に単位を認定できるオープンレクチャー協定を締結し、授業形態を協議している。
- 教員養成コア・カリキュラム委員会において、教育実習に関する検討課題を抽出するとともに、教育実習の評価について各附属学校園の実態を調査・分析し、次年度に使用できる手順を作成している。

## **附属病院関係**

### **（教育・研究面）**

- 「地域医療教育支援センター」を設置し、学生の地域医療実習に係る教育及び研修のシステムを構築するなど、地域医療人の生涯にわたる医療技術の向上等に取り組んでいる。
- 教育研修プログラムの充実等により、多数の卒後臨床研修医を受け入れている。

### **（診療面）**

- ドクターカーの運用開始や災害拠点病院への指定等、社会的要請の強い医療の充実に取り組んでいる。
- 臓器移植法改正に伴い臓器提供マニュアルを改訂するとともに、院内外関連部署の協力の下、臓器提供シミュレーションを実施し、平成 22 年 12 月には四国で初めての脳死下での臓器提供による腭臓腎臓の同時移植を実施している。
- 「医療安全管理部」を設置し、医療安全管理体制の機能強化を図るとともに、「感染制御部」を組織し、感染対策の充実及び病院機能の強化を図っている。

### **（運営面）**

- 医療職員が育児や就業、キャリア形成上の悩みを相談できる体制の整備やワーク・ライフ・バランス支援室ホームページの作成を行うなど、女性医師が働きやすい環境の整備に取り組んでいる。
- 手術件数の増加に向けた手術枠の見直しやクリティカルパスの推進等を実施し、大幅な増収を達成するなど、病院経営の基盤強化に努めている。